

**JENESYS2025 フォローアップ事業 “日韓次世代会議”  
オンライン及びオフライン交流の記録**

**1. 事業概要**

【目的】本事業では JENESYS 事業参加経験を有する日韓両国の大学生・社会人等がプログラム参加経験を生かして日韓それぞれの国が抱えている課題等をテーマにディスカッションを行い、オンライン及びオフラインのハイブリッド式で開催された本会議で発表と意見交換をしました。

両国の社会問題に関する意見交換を通じ、今後の日韓間における相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的に実施したものです。

- 【参加者】 11 月 22 日 JENESYS 事業に参加経験のある日韓両国の大学生・社会人等  
(日本側 9 名、韓国側 29 名)
- 1 月 10 日 JENESYS 事業に参加経験のある日韓両国の大学生・社会人等  
(日本側 8 名、韓国側 5 名)

**【日程】**

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応(参加者の人数 実績)
11 月 22 日	「2025 日韓次世代会議～ネクストジェネレーション 災害のない社会のために」 テーマ関連発表および意見交換	日韓の参加者を Zoom で繋ぎ、日韓共通の社会課題の中の 1 つである「防災」に関連して事例を紹介し、課題解決に向けた取り組みを共有しました。 日韓の参加者が自国における 3 つの災害・防災事例を紹介し、過去の災害から何を学び、今後にどう生かすか等、質疑応答を通じて活発に意見交換を行いました。 (参加者：38 名)
1 月 10 日	「2025 日韓次世代会議～SNS による社会問題と若者のこれから～」 テーマ関連発表および意見交換	韓国側参加者が自主的に渡航経費を工面して来日し、日本と韓国の共通の課題である「SNS による社会問題」および「日韓の若者のこれから」をテーマに、参加者それぞれが自身の考えを示し、解決

		<p>策や今後の発展方策について発表しました。</p> <p>質疑応答および意見交換の時間にはお互いの発表内容について積極的に質問するなど、活発な意見交換を行いました。</p> <p>(参加者：13名)</p>
--	--	---

## 2. 記録写真

	
<p>2025年11月22日 テーマ関連発表の様子</p>	<p>2026年1月10日 テーマ関連発表の様子</p>

## 3. 参加者の感想（抜粋）

### ◆ 韓国 大学生

日本の自然災害への防災対策が体系的になっているということを再確認した。特にハザードマップのようなシステムは韓国も学ぶべきだと感じた。今後もこのような会議を通じて両国の経験を共有しながら対策を模索していく必要があると思った。

### ◆ 韓国 大学生

訪日団に参加し、能登半島地震について実際に目で見て耳で聞いたが、今回は日本全体の地震や災害対策についての現況を知ることができて有意義だった。

### ◆ 日本 大学生

今回は初の対面での開催で、オンラインの際よりも会話のキャッチボールがスムーズにでき、とても意義深い時間となった。韓国の比較する文化の成り立ちについて、当時の国としての経済的状況などを踏まえながら理解できたことが印象的だった。それらが現在の SNS 問題に繋がっていることも理解できた。

### ◆ 日本 大学生

発表スライドを準備したことで、日本に関する災害の知識も深まったと同時に韓国ではどのような災害が起き、それに対しての対策がどれぐらいのスピード感で実施されているのかを日本と比較しながら学ぶことができたため、とても良い機会だった。韓国側の対策を聞き、実際に韓国旅行に行った際に確かめてみたいと思う部分もあった。また、韓国の参加者から質問を受けた際に上手く返答できないことが多々あったので、今後の次世代会議では発表内容だけではなく、関連した内容についても勉強してから臨みたいと思った。

#### ◆ 韓国 大学生

オンラインのみで行っていた会議を直接対面で実施することで、メンバーとの絆を築くことができ、お互いをより深く理解するきっかけとなった。特に多様な意見を直接交わす過程で、日韓間の共通課題と異なる視点をより現実的に感じ取ることができた。今回の会議で得た経験をもとに、今後も民間日韓の架け橋として、一層の日韓関係の発展に貢献していきたい。

#### ◆ 日本 社会人

日韓双方の発表を通じて、SNSの問題が国ごとに異なる側面を持ちながらも、依存や誤情報の拡散、誹謗中傷といった共通課題を抱えていることを実感した。特に、韓国側のインスタグラムを中心とした利用実態や、日本側の同調圧力による批判の連鎖という指摘は印象的だった。SNSを単に規制するのではなく、一人ひとりが情報と向き合い、適切に使いこなす力を育てることの重要性を改めて考える機会となった。

### 4. 受入れ側の感想（抜粋）

#### ◆ 日本側運営団体（JENESYS 同窓組織 Japan Korea Alumni Forum）

今年度の日韓次世代会議はソウルのKJAF、釜山のKJAFB、それぞれで開催することができ、KJAFとはオンラインとオフラインを合わせたハイブリット型、KJAFBとはオフライン開催となり、開催の形についてもそれぞれの良さを感じることでなりました。KJAFとは「防災」というテーマで、地震や水害、人的災害等について議論しました。昨今の環境変化の中でも両国で関心の高いテーマとして、お互いの得意な防災の形や生活の知恵について話すことができ、ミクロな視点での話もすることができました。

KJAFBは日本に来ていただいて直接交流ができ、お互いの雰囲気や表情を見ながら話せたことで直接の交流の良さをあらためて感じる機会となりました。8月から1月の会議へ向け交流会を兼ねたオンラインでの会議を重ね、「少子高齢化」「受験・就職戦争」のトピックについて話し合ってきました。1月の会議では「SNSによる社会問題」と「若者のこれから」というテーマで議論を行いました。両議題とも、両国の若者に焦点を当て、先の予測できない社会で私たちがよりよく生きていくためにという私たちに合ったテーマを設定できたと思っています。

昨年国交60周年を迎えた日本と韓国ですが、これからの60年、100年は私たちがつくっていくという意識もあらためて持ち、これからも両国の発展のために私たちは架け橋となって活動していきたいと思っています。

◆ 韓国側運営団体（JENESYS 同窓組織 Korea Japan Alumni Forum BUSAN）

今回の次世代会議は本当に幸運にもオフラインで実施することになりました。現場の雰囲気、相手の表情、さらには数秒間流れる沈黙に至るまで、その全てを捉えながら対話することが真の姿ではないかと考えていましたが、その考えは今回の対面会議を通じてさらに確固たるものとなりました。韓国と日本の SNS 利用の実態、そして両国の若者のこれからについて、本当に深い議論を交わすことができ、一つのテーマごとに質疑応答だけで 30 分は超えました。それほどお互いに知りたいたいことが多く、伝えたいことも山ほどあったのです。対面会議はその好奇心を満たす、非常に素晴らしい役割を果たしてくれました。私は今回の次世代会議の思い出を一生忘れないでしょう。

今回の会議が実現できるよう積極的にご協力くださった日韓文化交流基金、JKAF をはじめとする多くの方々に心より感謝申し上げます。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

 <p>jkaf_official こんにちは！JKAFです。 11月22日（土）、5回目となる日韓次世代会議を開催しました。 今回は「防災」をテーマに、3チームに分かれて発表を行いました。 日本側：地震/水害/気象</p>	 <p>jkaf_official님 외 여러 명이 좋아합니다 kjaafb_2nd KJAFB 2기의 마지막 활동으로, 방일 및 JKAF와의 대면 차세대회의를 진행했습니다. 양국의 문화와 사회를 공유하고, 청년들이 마주한 공통된 고민에 대해 함께 이야기할 뜻깊은 시간이었습니다. 도움주신 모든 분들께 감사드리며, 짧지만 값있던 만남이 앞으로도 이어지길 기대합니다.</p>
<p>2025 年 11 月 24 日（Instagram） 今回は「防災」をテーマに、3チームに分かれて発表を行いました。事例や提言を交えながら、互いの知見を深め合い、質疑応答では時間が足りなくなるほど活発な議論が交わされました。今回の学びと経験が、両国に共通する防災課題に向けた新たな一歩となることを願っています。</p>	<p>2025 年 1 月 24 日（Instagram） KJAFB 第 2 期の最後の活動として、JKAF との対面次世代会議を実施しました。両国の文化と社会を共有し、青年たちが直面する共通の課題について共に語り合った意義深い時間でした。ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げますとともに、短くも深いこの出会いが今後も続くことを期待しています。</p>

## 6. 本会議での発表内容（抜粋）



・11月22日に実施した「2025 日韓次世代会議～ネクストジェネレーション 災害のない社会のために」では、韓国側は「地震」「台風・洪水による水害」「人災と安全不感症」を、日本側は「地震」「洪水・内水氾濫・高潮による水害」「気象災害」をテーマに発表し、日韓それぞれの災害の事例紹介と災害発生時の対応についての問題点や対策を紹介しました。

質疑応答では「地震に関連して、日本では高齢者や身体の不自由な方が避難するためのシステムが構築されているのか」「日本では地震が多いため各家庭で非常用袋を準備している家庭が多いが、韓国ではどうか」「日本ではハザードマップ以外でも谷や浜がつく地名は水害リスクが高いと言われているが韓国も同様な考え方はあるのか」「韓国のソウルは地下鉄路線が多いが、大雨が降った際は被害が出るのか」「韓国ではハザードマップになじみがないが、地震や洪水等が別々にあるのか、それとも1つのハザードマップで網羅されているのか」等の質問がありました。

・1月10日に実施した「2025 日韓次世代会議～SNSによる社会問題と若者のこれから～」では、「SNSによる社会問題」「若者のこれから」をテーマに日韓それぞれの参加者が問題点と解決策を発表しました。

### 「SNSによる社会問題」の発表

●韓国側：SNSの利用率が高い背景として、ショート動画やメッセージ機能を併せ持つ複合的なプラットフォーム化や、アルゴリズムによって利用者の関心に合わせたコンテンツが表示される点が挙げられ、これにより利用時間の長時間化やスマートフォン依存が問題視されている旨の発表がありました。また、フェイクニュースの急速な拡散や、コメント・チャットを通じたサイバー暴力も課題として示されました。対策として、SNS利用時間の管理、批判的に情報を受け取る姿勢の育成、学校や社会におけるメディアリテラシー教育の強化が重要であり、SNSを排除するのではなく、自ら適切にコントロールする意識が必要であるとまとめられました。

●日本側：迷惑行為動画、誹謗中傷、フェイクニュース、個人情報流出などが主なSNS上の問題として挙げられました。また、匿名性により発言への責任感が薄れやすい点や、批判が連鎖し集団化・過激化しやすい点が指摘され、有名人だけでなく一般人も被害の対象となり、精神的負担や生活への深刻な影響を及ぼす場合があるとされました。さらに、災害・政治・健康分野における誤情

報の拡散が社会的混乱を招いている点も課題として示され、対策として、法整備やプラットフォームの対応強化に加え、小学校段階からのメディアリテラシー教育の充実と、個人一人ひとりの意識向上が重要であるとまとめられました。

#### 「日韓の若者のこれから」の発表

●韓国側：日韓が共に未来を切り開くためには、日本の強みである精緻さや安定性と、韓国の強みであるスピード感や挑戦精神を組み合わせることで相乗効果が生まれるとの意見が発表されました。日韓共通の課題である少子高齢化や地方消滅に対しては、技術協力の重要性が指摘され、日韓の技術やシステムを融合させた NEVER×出雲市などの事例が紹介されました。また、今後は文化交流に加え、起業支援や共同事業など、実質的な協力基盤の構築が重要であるとまとめられました。

●日本側：転職希望者の増加やリモートワークの普及、高齢者就労や育児休業取得の拡大など、働き方の多様化が進んでいる現状が示されました。日韓共通の課題である少子化に対しては、柔軟な働き方や多様な勤務制度の活用、価値観や家族の在り方の多様性を認める社会づくりが重要であり、また、学び直しや複数の収入源を持つことで変化に対応する必要があるとまとめられました。人生を軸に働き方を考える姿勢が、今後ますます重要になると示されました。

**実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金**